

情報公開文書

「インフルエンザ流行期に緊急群に割り付けられた発熱患者における JTAS (Japan triage and acuity scale) の妥当性」

研究の概要：

名称： インフルエンザ流行期に緊急群に割り付けられた発熱患者における JTAS (Japan triage and acuity scale) の妥当性

目的： インフルエンザの流行が JTAS の発熱患者の入院に関する診断精度に影響するかを明らかにするために、流行期と非流行期それぞれでトリアージカラーごとの入院割合を把握し、入院に関する診断能を比較します。

期間： 倫理委員会で承認後から 2024 年 8 月 31 日まで

方法： 相澤病院の診療記録を、匿名化した状態で京都大学大学院医学研究科医療疫学分野に送付し、インフルエンザ流行の有無が JTAS の診断精度に影響しているかを両施設で解析します。本研究で扱うデータは、臨床情報(年齢、性別、主訴、病名、体温、血圧、脈拍、酸素飽和度等)、診療に関する情報(受付日時、来院手段、転帰等)、トリアージに関する情報(トリアージレベル、判定理由等)で、すべて匿名化されております。

研究対象：

本研究は、2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までに相澤病院の救急外来を受診した患者さんを対象にしています。相澤病院で匿名化された診療データを用い、京都大学でインフルエンザ流行の有無と入院に関する JTAS の診断精度を検証いたします。検証は両施設で行います。

研究の意義：

多数の患者さんが受診される救急外来では混雑が問題になっております。限られた医療資源で診療を行わなければならないため、JTAS というツールでトリアージを行い、診療の優先順位を決めることがあります。しかし、インフルエンザの流行期には診療の優先順位の判断を見誤ることがあり、重症患者さんの初期対応が遅れることがあります。そのため、インフルエンザの流行が JTAS の発熱患者さんの診断精度に影響するかを調べ、よりよい診療を提供するために「インフルエンザ流行期に緊急群に割り付けられた発熱患者における JTAS の妥当性」という臨床研究を行います。

研究の目的：

インフルエンザの流行が JTAS の発熱患者の入院に関する診断精度に影響するかを明らかにするために、流行期と非流行期それぞれでトリアージカラーごとの入院割合を把握し、入院に関する診断能を比較します。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療記録を、匿名化した状態で京都大学大学院医学研究科医療疫学分野に送付し、インフルエンザ流行の有無が JTAS の診断精度に影響しているかを両施設で解析します。本研究で扱うデータは匿名化されたデータのみです。情報収集の作業に当たっては担当者がこれを行います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 救命救急センター・山本基佳

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763